

甲斐駒ヶ岳山行報告

(山 域) 南アルプス南部

(コース) 矢立石駐車場～日向八丁尾根～甲斐駒ヶ岳～黒戸尾根～駐車場

(日 時) 前夜発 2018年9月16日(日)～17日(月)

(参加者) CL 佐藤、宮城、澤田(淳)記録

(山行タイム)

16日 矢立石日向山登山口 6:00→日向山 7:40→大岩山 12:10→烏帽子岳 16:40→六合岩室避難小屋
17:50(小屋泊)

17日 避難小屋 5:20→甲斐駒ヶ岳 7:20→七丈小屋 9:40→駒ヶ岳神社 15:50→矢立石日向山登山口
17:00



(山行報告)

1日目 9/16 曇り

3連休で予定していた北鎌尾根が、天候で中止となり、佐藤さんが、比較的天候の良い南アルプスの甲斐駒の代替案を出してくれる。ご一緒するはずだった松本さんが、急遽行かれなくなり、残念だけれど3人で出発。前日は、屋根のある小淵沢の道の駅で仮眠する。白州の道の駅にも寄りビバークする可能性も考えて、水を一人3リットル汲む。矢立石日向山登山口の駐車スペースには1番乗りだった。地図上の

波線部分の踏みあともはっきりしていて、道はみつけやすい。

大岩山を下り八丁尾根から烏帽子岳を抜け鋸岳との分岐までが、とても長く感じる。3Lの水は重いし、お花も終わりきのこばかりで、黙っていると辛いので、どうでもいいような話をずっとしゃべり続ける。幸いカッパを着ることもなく青空も見えだす。稜線にでてからも6合目石室がなかなか現れてくれない。手前で、道が少し左に下りだし踏みあとも怪しくなってきたので、稜線にもどるとすぐ石室手前の水場に降りていく砂地にでた。もう薄暗くなり始めたので、本当にほっとした。石室は、土間と板の間が、半分ずつで、意外に暖かい。鋸に行くらしい女性パーティーと私たちと同じコースの男性一人だったので、板の間のスペースがまだ空いていた。佐藤さんが、水汲みに行っている間、指示どおり芋煮なべを作り終えたが、帰りが遅いので、宮城さんと心配になり外にランタンを持ってでる。真っ暗な中、姿が見えた時は、本当にほっとした。みんな寝始めたので、静かに芋煮会後就寝。

2日目 9/17 曇り

4時起床。甲斐駒の頂上は、曇っていて展望なし。残念である。ウラシマツツジの真っ赤な紅葉とやはり真っ赤なナナカマドの実が、秋が来たことを告げている。コゴメグサのかわいい花にも出会えた。私には何年かぶりの黒戸尾根も情けないことに記憶がほとんどない有様。七丈小屋のテント場が小屋より高い場所にあったのが、なんとなく覚えがあるような、、、ヤセ尾根の刃渡りも記憶がなく、マツタケとりにきているお兄さんにマツタケをみせてもらったりして、やっぱり土瓶蒸しが一番だよーなんて、1度しか食べたことないのに興奮して話しているうち通り過ぎてしまったらしい。やはり一般道は歩きやすく嬉しい。

やっと駒ヶ岳神社につき、日向山登山口までの1時間をタクシーに乗ろうと電話したがつかまらない。仕方なく売店前にザックをデポして、アイスクリームをなめながらまた登る。

2日間とも行動時間は、ほぼ12時間。よく歩きました。3人ともクタクタである。佐藤さんは、5年前反対周りで、単独でいったそうだ。気が知れないと思いながら自分もまた辛さを忘れて、行ったことのない鋸なんか挑戦しそうで怖い。

最後に宮城さんと佐藤さんのおかげで楽しく無事行てくることができました。感謝！



ビーチ日向山から鞍掛山、大岩山方面



鞍掛山分岐手前の展望効くところから甲斐駒ヶ岳



鞍掛山から大岩山は単調な樹林帯で眠い



やっとの思いで烏帽子岳、ゴールは近いがぐったり



翌朝一面ガス、甲斐駒ヶ岳への登り



2時間弱で山頂到着



こっちも長い！黒戸尾根



ベニテングダケ① (毒)



ベニテングダケ② (毒)